



ペテロの手紙第一の構造

2章11節～3章7節、4章12節～5章11節

[1ペテロ 2:11-3:7] 義

2013.6.14

2:11-20 善悪		2:21-3:7 罪	
13-17 B	11-12 A	24-25 A'	21-23 C'
従え. 敬え	敬遠. 正しい	罪處. 正しい	苦し. 忍耐
苦し. 忍耐	従え. 敬え	敬え. 夫よ	従え. 妻よ
19-20 C	10 ^{しんばよ.} B	3:7 B'	3:1-6 B'

[1ペテロ 4:12-5:11] 復活のいのち

牧者. 羊	5:1-4 B	4:12-19 ^{あやみに} 苦し. 喜ん. 幸い	信くさる者.
悪魔. 犬	苦し. 悪魔	若い人たよ.	ハレハダ
	5:7-11	5:5-6 B'	

高. 栄光!
信. 苦し

第一ペテロの分析をしています。

2章11節から3章7節。4章12節から5章11節。この二つの段落を見ました。「愛する者たちよ」という言い方で始まっている段落です。どちらも具体的な人物、従う者たち、王の下にいる者たち、しもべたちよ、妻たちよ、夫たちよ、長老たちよ、若い人たちよ、という言い方もあるので、「愛する者たちよ」という言い方でまとめられているこの人たちに教えている段落。この二つは平行しているものかなということで分析しました。

2章11節からは大きく二つ（に分かれ）、4章12節からは大きく一つということです。形が似ています。どちらも愛する者たちが2組ずつ入っています。片方は長くて、片方は短く説明される。長いものと短いもの、主権者に従いなさいというところが長くて、「しもべたちよ」というのが短い。「妻たちよ」が長くて、「夫たちよ」が短い。「長老たちよ」が長くて、「若い人たちよ」が短いという形で構成されていますので、その形がそれぞれ3つの場所、2章11節から20節まで、2章21節から3章7節まで、4章12節から5章11節までの中にあります。

[1ペテロ 2:11-3:7] 義.

2013.6.14

2:11-20 善悪.		2:21-3:7 罪.	
13-17 B 従え.敬え	11-12 A 欲速.たまり	24-25 A' 罪離.たまり	21-23 C' 苦し.忍耐
苦し.忍耐 19-20 C	従え.敬え 18 LEBよ. B	敬え.夫よ 3:7 B	従え.妻よ 3:1-6 B'

まず、2章11節から19節までを見ると、最初に、この世の欲、異邦人のようなものから遠ざかりなさい。すべての権威に従いなさい。しもべたちも従いなさい。それで最後に苦しみをこらえるならば、忍耐するなら神様に喜ばれますという4つの段落に分かれます。

2章21節からのところも4つに分かれます。苦しみを受けている中で忍耐しなさい。罪から離れるように。妻たちよ、従いなさい。夫たちよ、愛しなさいというところです。

従うことと敬うことが何々しなさいという中に入っていました。苦しみの中で耐えなさいというのが、2章11節からのところにも2章21節からのところにもあります。この世の肉の欲から遠ざかりなさいということと、罪から遠ざかりなさいということが平行しているように見えます。

そうすると、2章11節からのところの構成をABBCというふう考えるなら、次の段落(2章21節)からは、CABB(あとでホワイトボードを見てください)。順番は違いますが、同じパーツで構成されているものです。

前半2章11節からのほうは特に、善と悪、悪から遠ざかる、善を行うということが強調されていて、2章21節からの後半のほうは、罪から離れる、罪を犯さない。そして妻たちに言っているのも、良い行いをしなさいというよりは、清い生き方をしなさい、自分の中を清めなさいということを行っていますので、主の祈りの5番目と6番目、罪を犯さないようにという罪から離れることと、悪から離れて善を行うというこの2つで2章11節からのすすめが書かれていると思います。

[1ペテロ 4:12-5:11] 復活のいのち

牧者・羊	5:1-4 B 長老たちよ	4:12-19 苦しみ、喜び、幸い 若人たちに 辱められる者	高・栄光!
悪魔・犬	5:7-11 苦しみ、悪魔	若い人たちよ、 5:5-6 B'	低・苦しみ

4章12節からのところは、4つに分かれています。

4章12節からのところは、主の名のゆえに苦しめられるけれども喜びなさい、喜び踊って幸いな者ですという山上の説教のところを思い出します。5章7節から11節のところは、苦しみの中で悪魔に立ち向かいなさい、悪から守られるように。5章1節から4節のところは、長老たちよ、羊を支配するのではなくて、模範になるやり方で導きなさい。若い人たちよ、へりくだりなさい。長老たちよのところと悪魔の話のところ、5章1節からと5章7節からのところの平行は、5章1節からのところには、羊が出てきます。悪魔のところには、獅子のようにというふうに出てきます。ですから、牧者は羊を憐れんで導く、卑しい利得ではない。それで、悪魔、サタンのすえであるパリサイ人たちを見るとわかるように、獅子のように羊を食い尽くすもの、犬である。歩き回っている。その対比があるのではないかと思います。

4章12節からのところは、苦しみの中でということ、5章5節からの若い人たちはへりくだりなさいといっていますけれど、4章12節からのところは、苦しみ、非難されてキリストの名のゆえに苦しみを受けて低くされている。辱められている。低くされている者と正しくへりくだる者、この対比があります。全部結局低くされている。長老たちも自分を低くする。悪魔に対して低くされても忍耐するということで、全部に共通しているのは、低い苦しみの中から栄光、高くされる、栄冠を受ける、支配するようになるということ、低くされている苦しみの中から高く上げられて栄光を受ける。すなわち復活のいのちが与えられる喜びについて愛する者たちにすすめているということです。2章11節からのところは、義について、正しさについて、善悪について。4章12節からのところは、復活のいのちについて愛する者たちにすすめているという段落になると思います。

イエスキリストに従って血のそそぎかけ、苦しみを受けても忠実に正しさを行うなら永遠のいのちが与えられるということを教えているような段落だと思います。